

短歌

小松文芸賞

【自由作品】

二木紫石展（湯浴み女）

金戸紀美子

近々と軸の掛かれる紫石展主の心溢るる画廊

行水の姿描きし「湯浴み女」の若き妻への熱き眼差し

ほとばしる水の雫を描きたる肌^{はだへ}近々見入る一幅

行水の画面に散れる水しづく耳癢^しふ絵師の聴きし音はも

添へ描きの茗荷の青葉に散る雫その葉かすかに揺るる心地す